

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	Firststep II
施設所在地	東京都江戸川区西小岩3-26-6

1. 活動のテーマ

<テーマ>

0歳児クラス【うどん、観光バス・消防署(乗り物)、八百屋、アイス】

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・給食でうどんのメニューはよく食べることで、小麦粉粘土の感触遊びをよく遊んでいたから。
- ・乗り物は園外に出ると良く指をさして反応する姿があり、その中から特に反応の良かったバスと消防車をピックアップした。
- ・八百屋は野菜の絵本をよく読んで興味を持っていたこと、室内遊びでカバンの中にブロックや玩具を入れて持って運ぶことを結びつけて設定した。
- ・アイス屋はブロックの中にボールを入れて見立て遊びをしている姿から設定する

2. 活動スケジュール

全体的に子どもたちの仕草やつぶやきから拾ったものを絵本やイラスト、写真などで見る機会を増やし、その反応からそれぞれ地域資源で本物を見に行ったり、食育に繋げたりを行う。そこから既成玩具や手作り玩具を使って環境へ反映した

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・うどん屋では保育者が紙粘土で作った見本、見立てが出来る紐やフェルトなどの素材、食育で作ったうどんを容器に入れて観察したり、遊びに使えるように準備した。
- ・乗り物では地図に実際に散歩で行った場所や消防署の写真を貼ったり、段ボールを使って子どもたちが中に入れるバスを制作し、設置した。
- ・八百屋では磁石を使った手作りの玩具、2歳児クラスが製作した野菜を受け取ったのでそれを袋に入れてより商品に見えるように工夫した。
- ・アイス屋では廃材として既成玩具だけでなく、子どもたち自身で混ぜて捏ねた紙粘土を丸めたものを準備したり、カップなどの廃材も準備し、様々な素材を取り入れるようにした

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

うどん、乗り物、八百屋、アイス屋それぞれ少し遊びを楽しんだ後に本物として地域資源(観光バス、消防署、八百屋、アイス屋)を活用した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

うどんでは持ち歩いたり、メニューを指さしたり、鍋の玩具で料理の真似をする姿が見られた。

・乗り物では既成玩具の消防車やバスを写真や絵本のイラストを見て見比べる姿が見られたり、観光バスの中に乗った写真を指さす姿が増えた。また段ボールで作った観光バスの中に乗って友達と触れ合ったり、ハンドルやタイヤを回して楽しむ姿があった。

・八百屋では絵本と本物を見てより興味を持って名前を覚えて言う姿があったり、カウンターを設置したことで友達と野菜を渡したりなどのやり取りが増えた。

・アイス屋では準備した素材のカップやお皿にアイスに乗せて本物のように作ったり、保育者や自分たちで食べる真似をしてごっこ遊びを楽しむようになった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

話すことが出来ない年齢なのでそこから活動を広げるのは難しかったが、カバンを持って歩く、戸外に出て興味を持ったものを指をさすなど小さな仕草からここまで広げることが出来るのだと改めて実感した。また、異年齢交流があったおかげで、年上の児の真似をしてより遊び方が上手くなっていることが増えたので近い学年だけでなく定期的に様々な学年との交流も増やすべきだと感じた動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	Firststep II
施設所在地	東京都江戸川区西小岩3-26-6

1. 活動のテーマ

<テーマ>

1歳児クラス【魚、ジュース屋さん、手作りパン、花】

<テーマの設定理由>

少人数制の保育園であり、子どもたち一人一人と向き合いやすいのが特色としてある。またちょうど1歳児クラスの月齢は自我が芽生え子ども同士のトラブルも起きやすい。コーナー保育を子どもたちの「好き」で満たすことで、集中して遊ぶ環境を作り、一人一人が伸び伸びと遊べるよう援助するため

2. 活動スケジュール

魚コーナー→10月鮭の解体ショー。11月運動会に競技として魚釣り、解体、舟盛り作りを取り入れた。パンコーナー→パン教室で実際にパン作り。2月には園内で粉から生地を作り、パン作りをした。ジュース屋さん→ジュースを買いに行き、作っている様子を見学。その後園でジュース作りをした。
アイドルコーナー→歌やダンスが好きで、カラーポリ袋を衣装にしている年上児に憧れを抱いていたので、室内にステージを作りそこで遊べるコーナーを設けた。
お花屋さん→花屋へ花を買いに行き、育てたり観察をした。その後コーナーへ落とし込む最中。食育のため近所のスーパーへ買い物。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

鮭一匹、コーナーに使うための棚や段ボール。子どもの想像力を高めるため、自由にお絵描きができるよう、新しいクレヨン。 アイドルコーナーには画用紙でステージを作り、光る素材のシールや折り紙、衣装に使うカラーポリ袋。仕切りに使うワイヤーネットや突っ張り棒。ガムテープやOPPテープ、両面テープ、カラービニールテープ、糊。食育では必要な食材を自分たちでスーパーに行き購入。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

魚コーナー→園児の保護者に魚関連のお仕事をされてる方がいたので、保育園に来てもらい鮭の解体ショーを行った。魚への興味関心が強かったので、それを運動会の親子競技に取り入れ子どもと一緒に楽しんでもらった。 アイドルコーナー→歌やダンスが好きで、年上児がカラーポリ袋の衣装を着ている姿を見て同じように製作した。歌っている姿も見られたのでステージを設けてそこで歌やダンスを披露できるように設定した。最終的に保護者とも衣装を作る機会を設けてアイドルイベントのような写真を撮り保育室内にその様子を掲示した。子どもたちがアイドルになりきって踊る中で、より自分たちの思いを体型やリズムで表現したいという意欲が見られた。そこで身体表現の専門家（ダンス講師）を招き、音楽に合わせた効果的な動きや、ステージでの見せ方を共に探究した。

パン→粘土遊びの最中「パンみたい」というつぶやきからパン教室へいき作った。その後も粘土遊びやコーナー遊びが活発になり園でもパン作りを行った。

ジュース→飲み物を入れたり飲む動作の遊びを繰り返し行ったり、果物や色を楽しむ姿を見てジュース屋さんへ発展した。実際に買って作り方を見たり試飲した。その後園でも作り、お店と園で作ったジュースの違いなどを楽しんだ。

花→花や植物に興味をもつ姿や絵本で花を探す様子を見て花を買いに行った。花を買い、育て、観察を行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

自分たちの興味関心のあるコーナーが揃っているので、こちらが促すことはほとんどなく、子どもたち自ら「粘土やりたい（パン作り）」と言ってきたり、魚を手に取り保育者が作った手作り包丁を使って捌く真似をして「はいどうぞ」とごっこ遊びで料理を作ったりするなど、主体的に遊ぶ姿が見られた。このクラスの特徴として感覚過敏な子が多い印象であったが、粘土や絵の具などその他にもたくさん感触遊びを取り入れたことで、ほとんど抵抗なく指先を使う動作に抵抗が見られなくなってきた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今まで既成のおもちゃで遊ぶか、保育者と一対一で遊ぶことが多かった子どもたちだったが、一人一人の興味関心を広げ、コーナー保育にそれを落とし込むことで、集中して遊ぶ姿が見られるようになった。集中することで一人一人が落ち着いて遊べるようになり、トラブルも減ってきたように感じた。

そして何より保育者自身も楽しく保育ができているということを感じることができた。子どもたちをどう楽しませるかということを考えて保育していくのはもちろんではあるが、保育者自身も「ワクワクできるか」「次はどんなことをしようか」と子どもたちの目線で考えることが重要であると感じた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	Firststep II
施設所在地	東京都江戸川区西小岩3-26-6

1. 活動のテーマ

<テーマ>

2歳児クラス【地域資源を活用したコーナー保育（病院、消防署、洋食屋）】

<テーマの設定理由>

（保育室の中で1番小さい面積に園児8人で生活する環境の中で、少人数だから子どもたちのつぶやきを細かく拾える強みを生かし、子どもたちがワクワクするような環境をテーマにした。病院、消防署:内科検診の実施、活動中に転んだ友だちをレスキュー隊になって助ける姿があったから。洋食屋:食への興味があり、料理ごっこを楽しむ姿があったから。テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

2. 活動スケジュール

病院、消防署:内科検診でお医者さんは何をしていたか、必要な道具はなにか、観察しながらサークルタイムで子どもたちから発信して制作意欲に繋げていく。消防署は消火訓練で来園した消防士の方や消防車を見た上で、実際に消防署に赴いて消防車の中や細部までを観察する。見学後は消防車や服や帽子、炎を作り、リアルな消防署を再現し遊ぶ。

洋食屋:食への興味を生かし、給食の食材は何が使われてるのか探したり、野菜の絵本から実際に八百屋へ本物を見に行く。八百屋に行った後は廃材や素材を使った野菜作りを楽しむ。八百屋から料理ごっこが発展し、本物のコックを見ようと洋食屋に赴く。子どもたちから店員さんに質問をしながら、実際に作っている様子を見学したり保育室にて調理器具やディスプレイのショーウィンドウも子どもたちと一緒に作り、料理ごっこがより本格的になり遊びが広がる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

廃材、OPPテープ、ガムテープ、ラミネート（子どもが片付けをしやすいうように画像を貼付するため）、スズランテープ、画用紙、不織布、紐、プラスチックケース（環境の統一を図るため）、ワイヤーネット（作品を展示する）、ワイヤーフックなど。

子どもの興味やつぶやきを落とし込んだコーナーをそれぞれ作った。1コーナーずつ、遊び込めるように区画を整備し、遊んでいる姿やドキュメンテーション、デザインマップを掲載することで子どもたちも大人もどんな環境が一目でわかるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

病院、消防署:内科検診でお医者さんは何をしていたか、必要な道具はなにか、観察しながらサークルタイムで子どもたちから発信して製作意欲に繋げていった。消防署は消火訓練で来園した消防士の方や消防車を見た上で、実際に消防署に赴いて消防車の中や細部までを観察した。見学後は消防車や服や帽子、炎を作り、リアルな消防署を再現し遊ぶ姿があった。

洋食屋:食への興味を生かし、給食の食材は何が使われているのか探したり、野菜の絵本から実際に八百屋へ本物を見に行っった。八百屋に行った後は廃材や素材を使った野菜作りを楽しんでいた。八百屋から料理ごっこが発展し、本物のコックを見ようと洋食屋に赴いた。子どもたちから店員さんに質問をしながら、実際に作っている様子を見学したり保育室にて調理器具やディスプレイのショーウィンドウも子どもたちと一緒に作り、料理ごっこがより本格的になり遊びが広がっていった

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

園での取り組みとしてデザインマップを行っている赤く囲まれたところは子どものつぶやきや動き、青く囲まれたところは保育者の動きやしかけを書いて保育室に掲示している。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日頃から子どものつぶやきを元にコーナーや保育室の環境設定を作り、地域資源に繋げて地域の人と根強く活動できるように取り組むことができていて良かった。今回のすくわくのおかげで子どもたちが使いたい素材や道具をより一層揃えることができ、伸び伸びとした想像力に対応できたのもまた良かったという振り返りがあった

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	Firststep II
施設所在地	東京都江戸川区西小岩3-26-6

1. 活動のテーマ

<テーマ>

3歳児・4歳児クラス【パン屋さんコーナー・電車コーナー・お菓子の家・オシャレコーナー】

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・パン好きな保育者からの発信で設定した。
- ・電車が好きな児が多く、プラレールで遊んだり、牛乳パック等で電車を作ったりすることを楽しんでいる。作った電車で遊んだり、飾って鑑賞を楽しんだりするために設定した。
- ・ままごとをするコーナーがなく、室内を動き回る児が見られたことをきっかけにダンボールで家を作った。絵本の「ヘンゼルとグレーテル」を読んだことで、「屋根にお菓子の箱を飾ろう!」とのつぶやきから、お菓子の家になった。
- ・昨年からの衣装作りの名残で、オシャレを楽しんでいた児の「鏡を見ながら衣装を着たい」とのつぶやきからドレッサーを設置し、コーナーとなった。

2. 活動スケジュール

保育者がスクイズのパンを用意し、感触や匂いを楽しむ中で、自分たちでも作りたいとのつぶやきから、紙粘土でパンを作る。お店屋さんのやりとりも見られるようになったので、買い物袋やかまど、衣装を用意し、パン屋さんごっこが始まる。

- ・プラレールを走らせる場所を確保し、好きなように繋げて遊べるようにする。牛乳パックで電車を作るようになり、作った電車を飾れる棚を設置する。牛乳パックの電車が主流になったことでプラレールが疎かになっていた為、撤去。作った電車で遊べるようにジョイントマットを用いて線路を設置する。
- ・絵本コーナーでままごとをする姿が見られたため、ダンボールの家を設置。絵本のヘンゼルとグレーテルを読み、お菓子の家を作ろうとのつぶやきがある。お菓子の箱を持ち寄り、屋根に貼り付ける。煙突や暖炉も作りたいとのつぶやきもあり、設置する。パン屋さんコーナーからパンを持ち寄ったり、製作したものを持ち寄ったりしてままごとを楽しむ。
- ・昨年からの名残で、ポリ袋で衣装を作る。衣装かけを用意し、そこから自分のを選んで着ることを楽しんでいた。鏡を見ながら衣装を着たいとのつぶやきから、ドレッサーを設置。パーティーションを用いて、小物を飾ったり、子どもたちの髪型を写真に撮りラミネートしたヘアカタログを用意したことで、ドレッサーの鏡を見ながらオシャレをするを楽しむ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) ・狭すぎず、かつ広すぎない子どもが数人入れる広さの場所の確保。パーティーション等で小物や写真を飾る。パーティーション、籠、紙粘土、牛乳パック、ダンボール、ガムテープ、ビニールテープ、衣装かけ、ポリ袋、ジョイントマット等。

探求活動の実践

4. 探究活動の実践

紙粘土でパンを作ったり、食育でパン作りをしたりした。また、実際にパン屋さんに見学に行き、メロンパンを実食した。本を見てパン作りの勉強をした。 ・電車の雑誌を見ながら牛乳パックで電車を作る。実際に電車に乗って街探検に出かける。駅のホームで電車の観察をしたり、電車の塗り絵を楽しんだりした。

・お菓子の家にあるものを絵本で探したり、何のお菓子があるか調べたりして、様々な素材を使ってお菓子を作って飾った。壁には絵本で見た絵のようにペンで描いたり、好きなお菓子の絵を描いた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・パンをひたすら買い物袋の中に入れる。かまどに入れて焼く真似をする。衣装を着てパン屋さんごっこをする。パン屋さんで買ったパンをお菓子の家に持っていき、ままごとを楽しむ。 ・電車のアナウンスや歌を歌いながら電車を作ったり遊んだりする。雑誌を見ながら電車に詳しい友だちに質問したり、会話をしたりすることを楽しむ。

・煙突から廃材で作ったお菓子を落として楽しむ。パン屋さんコーナーのパンを持ち寄り、ままごとを楽しむ。製作したものを持ち寄り、ままごとを楽しむ。

・鏡を見ながらオシャレをすることを楽しむ。衣装をたくさん作ったため、どの衣装を着ようか悩む。鏡を見ながら髪を結ぶ。友だちの髪も結ってあげる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもの日常に寄り添ったコーナーは、長い期間続いていくことが分かった。子どものつぶやきだけでなく、保育者からの発信でも、子どもたちは興味を持ってコーナーへと発展させてくれるため、保育者からの発信も捨てきれないと思った。子どもたちの興味の移り変わりが激しいため、上手く続かないコーナーもあったが、より興味を深めていけるコーナー作りを心がけていきたい

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	Firststep II
施設所在地	東京都江戸川区西小岩3-26-6

1. 活動のテーマ

<テーマ>

5歳児クラス【海】

<テーマの設定理由>

ディズニーのアリエルに憧れる児がドレスを製作して着用しアリエルごっこを始めた。そのごっこ遊びの中でアリエルに扮した児たちが「水がないから泳げない」とつぶやいたことをきっかけに『海コーナー』を作り始めた。

2. 活動スケジュール

ドレス製作→ごっこ遊び→海コーナー→葛西臨海公園

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

保育室に海コーナーを設置。床に絵の具で塗った画用紙を敷き、水の雰囲気が出るようにその上にビニールを敷いた。周りの壁も海の雰囲気の色で囲んだ。
海のイメージが広がるよう、写真を用意し、スズランテープ、ビニールテープ、折り紙、色画用紙、絵の具、サインペン、シール、空き容器などの廃材等を準備した。また同時にハサミ、のり、ボンド、セロハンテープ、oppテープ、ガムテープなども常設した。

4. 探究活動の実践

アリエルのドレスを製作

マーメイドごっこ始まるが水がない為、泳げずに寝ているマーメイドごっこになる
マーメイドが泳いで遊べる海コーナーを設置
水のイメージで飾り付け始める
実際に海を見に行きイメージを広げる
海で貝殻拾いをする
貝殻でマーメイドのドレスに合うアクセサリ作りが始まる
海コーナーの本物の水を入れようと試行錯誤する
アリエル（海外文化）への憧れから始まった活動を深めるため、英語講師と共に海の生き物の英語名や、海を守るための言葉を学び、多言語での表現に触れる機会を作った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

マーメイドごっこで寝転がって遊ぶ姿が度々見られ理由を聞くと「水がないから泳げない、動けない」と返答があった。海コーナーを作るとすぐにコーナー内で泳いで遊ぶ姿が見られた。コーナー製作の時にあまり参加できていなかった児に声を掛けると「海を見たことがないから分からない」との返答があり、本物の海を見に行くことになった。海では砂浜の砂の感触を確かめたり、貝殻拾い楽しんでいた。また電車に乗っていくことで電車への興味も広がった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ただ寝そべってゴロゴロしているように見えた児だが「水がない」と言うつぶやきを拾えたことでコーナーができ、そこから本物の海を見に行き、さらに室内に水を飾ろうとするなど活動がどんどん広がっていった。何気ない行動も見守りつぶやきに耳を傾けることで子どもたちの興味関心がどんどん引き出されることに改めて気がつくことができた